



瀬戸内海クルーズ推進会議（第9回全体会議）

令和6年度の活動報告及び今後の予定

令和7年4月24日

瀬戸内海クルーズ推進会議 事務局

現アクションプランの総括【ランドオペレーター、クルーズ船社、旅行会社の意見】

●瀬戸内海クルーズ推進会議アクションプラン（行動計画：令和元年策定）

＜現行アクションプランに基づく具体的な取り組み＞

①広域連携による戦略的な誘致活動の実施

- クルーズ船社等を招聘したセミナー、講演会の開催
 - ・探検クルーズの紹介（船社：ポナン）
 - ・アフターコロナ時代のクルーズ船受入（東武トップ）
 - ・大阪関西万博を契機としたクルーズ船誘致（万博協会）
 - ・MaaSの取り組みの紹介（JR西日本）
 - ・ヨット型客船のコンセプトと寄港地の運営アイデア（両備HD）ほか

②魅力的なクルーズプランの提案

- クルーズ船社等への誘致活動及びFAMツアーの開催
 - ・令和元年から7回の誘致活動（商談会）を実施。
 - ・令和2年、5年にFAMツアーを開催。
 - ・船社等とのパネルディスカッション。
- クルーズガイドブックの作成
 - ・春夏秋冬クルーズ、探検クルーズプラン
 - ・観光コンテンツ（世界遺産、国宝、グルメ、体験ほか）
 - ・瀬戸内海の情報（航行規制、岸壁スペックほか）

③戦略的な情報発信

- PR動画の作成
- クルーズ情報プラットフォーム
 - ・外航クルーズ船社向けのクルーズ情報を提供。
- 海外に向けた情報発信
 - ・平成31年シートレードへの参加、令和5年パンフ掲載。

民間事業者等からの意見

＜総括＞

- ・港湾管理者や自治体と直接話ができる貴重な機会であり、寄港地の現場の要望やシーケンスを実感できる場であった。
- ・離島を巡るFAMツアーは、ランドオペレーターにはこれまでになかった発想であり、有意義なものであった。
- ・瀬戸内海は寄港地間の距離が近いため、午前と午後で2か所を巡る商品を昨年から販売しているが、そのルーティングを考えるうえでFAMツアーは大変参考になった。
- ・瀬戸内海は航行すること自体がコンテンツであり、その解説やストーリーを考えるうえでも、陸からではなく、海から観察できたことは有意義な体験だった。

☆ 令和5年新たな外航クルーズ船社の誘致及び新たな港への寄港が実現した。

＜継続的な課題＞ 新アクションプランへ

- ・瀬戸内海は、文化や風景の観光資源に注目している欧米人にとっても魅力がある。まだ未だ未知のデスティネーションであり、もっと積極的に売り出していっても良いのではないか。
- ・外国船をチャーターした瀬戸内海クルーズを実施し大変好評であった。しかし、10万GT以上の船は瀬戸内海で航行することに船社はネガティブな印象であった。
- ・FAMツアーは、競争の観点から他社と合同ではなく個社単位での実施が望ましい。また、インバウンドと日本人客を対象に分けるべき。お茶や着付け体験などは日本客にはマッチしない。
- ・クルーズガイドブックについて、瀬戸内海を航行するクルーズ船のサイズに合わせたカテゴライズにより、船社にとっての有用性に繋がると考えられる。
- ・小型船での2次輸送を想定した現地実証は有意義であった。一方で個人旅行客等も増えていることから、これからは既存の定期航路等を活用した瀬戸内海周遊プランを進めていく必要がある。
- ・クルーズ旅客以外にも大型プレジャーボートで寄港する個人旅行客（富裕層）も多いため、それらに対する受入体制を進めていくことが重要である。

竹原港発着の小型船によるクルーズ旅客の二次輸送実証

クルーズ船寄港が増加する一方、二次交通用の観光バスの確保が課題とされており、不足する陸上交通を小型船利用による海上交通で補完するとともに、瀬戸内の島々の新たな観光コンテンツを掘り起こすことで観光地の分散化や地域振興等につなげるため、二次交通としての小型船を利用した島たびクルーズの現地実証を行った。今回の実証の結果、小型船によるクルーズ旅客の二次輸送の有用性が参加者に認識いただければ、クルーズ船の寄港時的小型船を活用したツアー造成へつながることが期待される。

- 実施日：令和6年11月12日（水）9:00～16:00
- 実施場所：竹原港～①大三島上浦港（井口港）～②大島宮窪港～③大三島宮浦港～④大崎上島めばる港～⑤竹原港～竹原町並み保存地区
- 参加者：ランドオペレーター、クルーズ船社、港湾管理者、地元自治体等 約40名



【ランドオペレーター等コメント】

- 観光コンテンツとして、WAKKAや竹原の街並み等、現状でも高いレベルで、ラグジュアリー船でも通用できる素材があった。
- オーガニック果物や商品は、こだわりの特産品として大変魅力的であった。農園までの道に農具などが積み上がっており、やや雑然とした印象で、お客様への迎感が薄れてしまう可能性がある。パンフレットに用いられている洗練されたデザインを活かし、入り口部分にウェルカムサインやインフォメーションボードなどがあると、より観光コンテンツとしての魅力が上がると思った。
- 収穫体験は貴重な体験になると思う。お土産にすると重くなるため、入園料で食べ放題コースがあると、クルーズ客によいと思う。



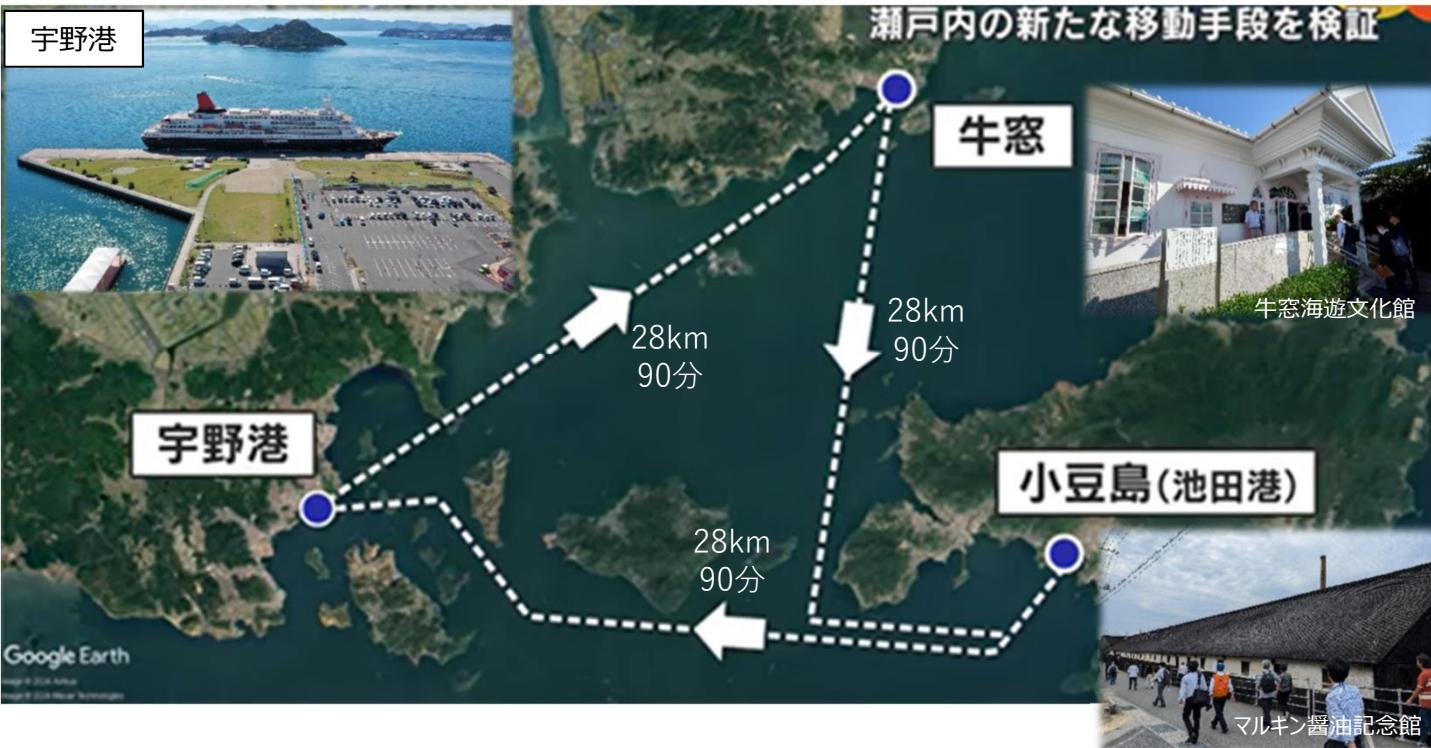
(参考)宇野港発着の小型船によるクルーズ旅客の二次輸送実証

- ・クルーズ船の寄港地では、陸上の二次輸送不足の懸念があり旅客輸送手段の分散化が求められている状況。
- ・二次交通手段としての小型船の利用促進を図るために、小型船とクルーズ船間の円滑かつ安全な旅客移動に向け、現地実証を行った。
- ・今回の実証にはランドオペレータの他、地元の旅行会社、観光協会からも参加いただいており、実証の結果、小型船によるクルーズ旅客の二次輸送の有用性が参加者に認識いただければ、クルーズ船の寄港時の小型船を活用したツアー造成へつながることが期待される。

■実施日：令和6年10月17日（木）9:30～17:30

■実施場所：宇野港桟橋～①牛窓～②小豆島～宇野港桟橋

■参加者：ランドオペレータ、クルーズ船社、旅行会社、観光協会、港湾管理者、地元自治体等 約30名



小型船とクルーズ船間の利便性、安全性の現場実証



実証事業
クルーズ船の旅客を小型船で周辺観光地へ
■輸送手段分散化 ■観光地への誘客を検証

【ランドオペレーター等からのコメント】

- ・「宇野港」はクルーズ船着岸地点と小型船乗船場所が徒歩圏内にあるため、条件としては非常に有利。
- ・「牛窓」を宇野港発着のツアーとして1コース造成する価値がある。
- ・「小豆島」も上位の観光素材でありツアー造成する価値がある。
- ・小型船を使用したツアーは、バスツアーでは体験・観ることのできない風景があるため、積極的に外国船社への提案したい。
- ・上質なツアーとするために地元を案内できる人材育成、及び小型船での移動時間が90分の有効活用が必要。



(参考)広島港(宇品地区)発着の小型船によるクルーズ旅客の二次輸送実証

- ・クルーズ船の寄港地では、陸上の二次輸送不足の懸念があり旅客輸送手段の分散化が求められている状況。
- ・二次交通手段としての小型船の利用促進を図るために、小型船とクルーズ船間の円滑かつ安全な旅客移動に向け、現地実証を行った。
- ・今回の実証にはランドオペレータの他、地元の観光協会からも参加いただいており、実証の結果、小型船によるクルーズ旅客の二次輸送の有用性が参加者に認識いただければ、クルーズ船の寄港時の小型船を活用したツアー造成へつながることが期待される。

■実施日：令和6年10月21日（月）8:30～16:00

■実施場所：広島港宇品桟橋～①小方港～②似島学園前桟橋～広島港宇品桟橋

■参加者：ランドオペレータ、せとうちDMO、観光協会、港湾管理者、地元自治体等 約30名

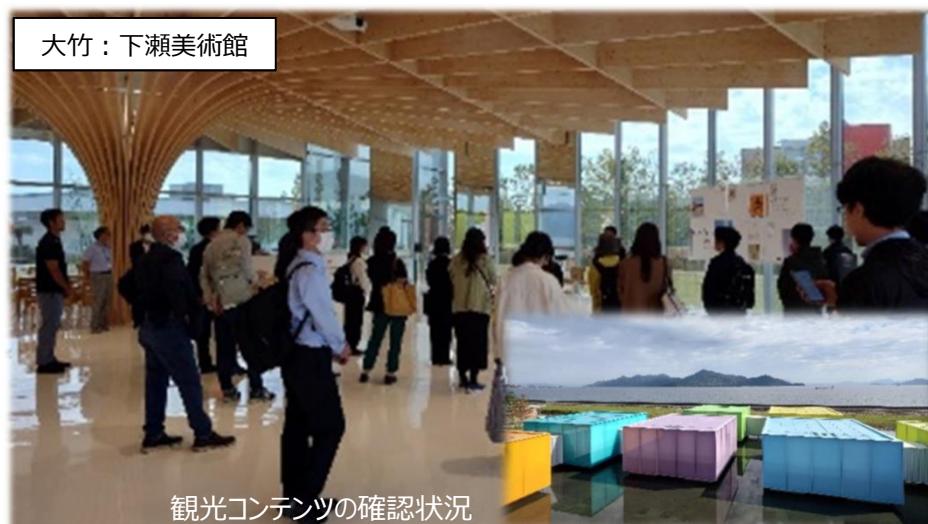
現地実証の実施ルート



広島港宇品桟橋



大竹：下瀬美術館



【ランドオペレーターのコメント】

- ・下瀬美術館と組み合わせ可能な観光素材がほしい。
- ・広島港（宇品地区）からの移動時間が30分を超えるため、「船内での案内等」に工夫が必要。
- ・学園前桟橋からユーハイム似島歓迎交流センターまで歩くと距離がある。また、同センターでの外国人プログラムの検討が必要。
- ・瀬戸内海に面したクルーズ事業においては、新たな交通機関（小型船）を利用したツアー商品の開発やクルーズ船客への販売ができるか重要。

中国地方整備局管内クルーズセミナー＆商談会開催

- 令和6年12月6日、中国地方整備局管内における新たなクルーズ誘致活動として、セミナー及び商談会を開催。本誘致活動には、邦船社・旅行会社・ランドオペレーターから3社を招聘、国・自治体・観光協会等の総勢約30名が参加。
- 前半は、招聘者によるセミナーを開催し、主に自社の業務や特徴の紹介、寄港地に求めるもの、クルーズ船受け入れ全般などについて説明された。後半は、自治体・観光協会等から、各地域の観光コンテンツ等のPRによる商談会が行われた。

①開催概要

- 開催日時：令和6年12月6日（金）13時00分～17時20分
招聘社によるセミナー、招聘者と自治体等の商談会
- 開催場所：広島（TKPガーデンシティ PREMIUM広島駅前 4階）
- 参加者：
- 招聘社： Rヨットプロジェクト(株)、東武トップツアーズ(株)
(株)クルーズプラネット
- 参加自治体・観光協会等：
岡山県、広島県、尾道市、三原市、福山市、呉市、
山口県、下関市、防府市、岩国市、鳥取港振興会、
境港管理組合、島根県、中国旅客船協会、
瀬戸内汽船（株）、（株）瀬戸内クルージング、
中国経済連合会、中国地方整備局

②セミナー



Rヨットプロジェクト(株)

- ・2027年以降、小型ヨットクルーズを国内の地方港湾を中心に運航し、「スロースピード」をテーマにした4～5泊の旅程を提供する。
- ・全長110～120mの日本籍ヨットは、移動、停泊にあたっての要件や規制が少なく、オペレーションがより自由で、寄港地の選択肢が多いメリットがある。
- ・プレ・ポストツアーもセットで販売したい。



(株)クルーズプラネット

- ・2026年日本発着の商品・スケジュールは公表済であり、既にお問い合わせ、ご予約もいただいている。
- ・客の年齢層としては、70代が中心であるものの、GWや夏休みなどの連休時にはファミリー層が多い。ベビーカーや車椅子で円滑に移動させる環境整備が重要である。
- ・来年から福岡の新規支店や、BtoBの新システム等を事業展開していく。

③商談会

- ・各自治体等から事前準備資料やパンフレット等を使ったプレゼン、意見交換が行われた。
- ・招聘者からは「船内で寄港地ならではの食事やお土産を提供するために、生産者や飲食店と連携できると望ましい」といった意見があり、寄港地選定や寄港地観光の商品化に向けた方向性について議論が見られた。
- ・商談会に対して、招聘者からは「自治体や地元船社とも幅広く意見交換ができ、有意義な日程となった」「こうした取り組みは、中国地方以外でも実施してほしい」等の感想を頂いた。



東武トップツアーズ(株)

- ・コロナ後の動向として、新しく日本に寄港する船社、新規の寄港地、ラグジュアリー・エクスペディションクラスの増加が見られる。
- ・寄港地現場では、二次輸送（バス・タクシー）や下船にかかる時間が課題となっており、関係省庁・自治体や地元事業者等の連携による改善が求められる。
- ・中国地整さんから声かけいただき参加した海上二次交通の実証実験は、ツアー商品化にあたり、安全・安心担保のための非常に重要なステップであり、貴重な機会であった。

瀬戸内海クルーズ新アクションプラン(案)

小・中型のラグジュアリー船による瀬戸内海クルーズの実現



既存の定期航路及び海上タクシー等の2次輸送を活用した瀬戸内海周遊観光の実現



出典:小豆島フェリー株式会社より提供

- クルーズ船が寄港したことのない地方部等における更なる観光振興を目指し、小・中型のラグジュアリー船による瀬戸内海クルーズを実現する

瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海となることを目指す

- 地方都市部における更なる観光振興を目指し、大型のクルーズ船による瀬戸内海クルーズを実現する。

- 離島における更なる観光振興と航路利用者の増加による持続可能な生活航路の構築を目指し、既存の定期航路及び海上タクシー等の2次輸送を活用した瀬戸内海周遊観光を実現する。

- 富裕層の長期滞在に伴う地方部等の経済活性化を目指し、大型プレジャーボートの受入拡大を実現する。

大型のクルーズ船による瀬戸内海クルーズの実現



大型プレジャーボートの受入拡大の実現

